

高山の文化を高めた人々

44

第10代高山市文化協会長 洲岬 幾雄

小鳥 幸男



昭和二十二年四月、初の公選市長に日下部礼一さんが当選すると、洲岬幾雄さんはその秘書役に就かれた。

洲岬さんとの思い出は、旅の思い出が印象深い。高山市経済部長をしておられた洲岬さんの元で私は商工観光課長補佐を務めていた。

ある年、全国観光連盟の総

会が広島で開かれて、私がお供をし

た。この時代はまだ海外旅行が認められておらず、一週間以上の国内旅行は、ある意味で夢のよう



長谷寺 洲岬氏と

な話であった。広島的第一夜は安芸の宮島で泊った。続いて山口県の湯田温泉、秋芳洞・秋吉台、萩・津和野と巡って浜村温泉で聞いた貝殻節を「何の因果で貝殻漕ぎ習ろうたカワイヤノ、カワイヤノ、色は黒うなる身は痩せるホーエンヤ、ホーエンヤノ」と不思議と音痴の私でも嘯^{はせ}までほぼ正確に覚えていた。松江、出雲大社や鳥取城を廻って、三瓶温泉に泊り、翌日は人形峠を越えて奥津温泉で洗濯ダンスを見て三朝温泉に泊った。最後に一行と別れ、倉敷に宿を取り、印象深

い大旅行であった。全観連の一行という事で最高最大のもてなしを受ける初めての経験であった。洲岬さんと、後に岐阜県議会議長になった殿地昇君と三人でよく旅に出掛けた。京都の吉兆、新潟の鍋茶屋と非日常的な旅を重ねた。昔のことが分からんときは洲岬さんに聞けばたいい解決した。その博学ぶりは故事来歴大事典かと思わせた。昔はいわゆる物識り博士が身の辺りに何人かいた。例えば眞木潔さん、代情通蔵さんといった方々がそうである。

洲岬さんはスポーツマンで、

市役所の野球チーム土曜クラブの名一塁手であって、当時大スターの上原謙ばりの美男子であったから女の子達のあこがれの的だった。

昭和五十九年、文化協会長に就任されて法人化を推進し、お陰で今日の礎が築かれた。

俳句は清輝楼に因んで清州を名乗られ、日枝神社の総代会長を務められたほか、飾物同好会長としても活躍され、高山の文化の高揚のために幅広く貢献された。温和な人格者で洵に文化人の手本の様な方だった。



小鳥、洲岬氏、殿地氏